

シュトゥットガルト自転車展参観報告及び同市内自転車小売店調査

1. シュトゥットガルト自転車展 (Fahrrad & ErlebnisReisen mit Wandern)

標記展示会は、キャンプや旅行などの総合レジャー展(CMT)に、「自転車&ハイキング」、「カヌー」、「ゴルフ&ウェルネス」及び「クルージング」の各展が合同開催されたものであった。

【Fahrrad & ErlebnisReisen mit Wandern】

主催： Landesmesse Stuttgart GmbH

会場： New Messe Stuttgart(Airport)

会期： 自転車&ハイキング； 2010年1月16日(土)～17日(日)

カヌー、ゴルフ&ウェルネス及びクルージング； 2010年1月21日(木)～24日(日)

CMT； 2010年1月16日(水)～24日(日) 10:00～18:00

使用ホール： 自転車&ハイキング； ホール9、7,400㎡

カヌー、ゴルフ&ウェルネス及びクルージング； ホール9、7,400㎡

CMT； ホール1～8、合計70,000㎡

入場者数： ※205,000人 ※CMT全催事合計

出展社数： ※自転車&ハイキング190社、CMT及び他催事計1,660社 ※出展ガイドより



メッセ・シュトゥットガルト入口



ホール9の様子

CMTは合計8ホール、メッセ内の殆どを使用していたが、自転車展はホール9の1箇所のみであった。同展は「自転車&ハイキング」と銘打ち、ホール9内にはサイクリングやハイキングの情報や地図を提供するインフォメーションブースも多数参加しており、上記出展社数にも含まれている。なお、ホール9は自転車展終了後、3日間の改装期間を経て、カヌー、ゴルフ&ウェルネスとクルージングの展示会に模様替えするという慌ただしさであった。

自転車関連の出展者は地元有力小売店が多く見られ、ブースでは様々な商品の即売も行われていた。主なブランドとしてはスポーツ車ではCUBE、メリダ、センチュリオン、シンプロン、部品、付属品ではシマノ、ヘルメットのクラトニ、サイクルメーターのシグマなどであった。その中でも電動アシスト自転車はコガミヤタ、ビクトリア、ケトラー、フライヤー、R&M、ダイヤモンド、他にも多数のブランドが揃い、全体の出展規模に比して充実しており、場内の試乗コーナーでは電動アシスト車を試走する来場者も多く、特別価格での販売を宣伝

する様子も見られ、同地域での電動アシスト車の人気の高さが伺えた。



地元有力自転車小売店のブース



会場内の即売の様子



電動アシスト車（左；ビクトリア、右；MATRA）

CMT 主催者によると、今回の来場者の 38%は 50km 以上離れた地域から、更に 16%は 100km 離れた地域から駆け付けており、バーデン・ヴュルテンブルク (BW) 州都シュトゥットガルト周辺だけでなく、ドイツ第 3 位の人口規模の州全域から幅広く消費者が集った大規模レジャー展との合同開催は、自転車展はわずか 2 日間の開催であったが効果的であった。

来年、自転車展は 2011 年 1 月 15、16 日、CMT は同年 1 月 15～23 日の開催予定である。

2. シュトゥットガルト市内自転車小売店調査

調査店舗①

中央駅の間近にあり、ZEG 加盟店（自転車関連製品の共同仕入れ組合）で、MTB、ロードレーサーのスポーツ車が 100 台、トレッキング車とシティ車は 50 台余りと子供車 20 台が展示されていた。主要ブランドは、FOCUS、BULLS、KTM で、価格帯は、MTB の入門～中級車は 400～700 ユーロ (51,400～89,950 円)、高級車は 1,000～1,500 ユーロ (128,500～192,750 円)、トレッキング車は 400～600 ユーロ (51,400～77,100 円) が中心であった。シティ車は、300～600 ユーロ (38,550～77,100 円) の価格帯であった。

電動アシスト車はダービーサイクルの RIXE が 2 台のみだったが、現在は閑散期で在庫は少ないものの、同車種は当地で既に人気を得ており、2009 年販売好調を受け、2010 年は取り扱い車を 6 モデルに増やす意向であると述べていた。



調査店舗①



会計付近



トレッキング車売り場



MTB 売り場

調査店舗②

同店には電動アシスト自転車が 8 台と E-BIKE(フル電動車)4 台が展示されているだけで、他の車種はおろか部品、付属品も一切ない非常にシンプルな店であった。展示車は試乗も可能であるが、当日はまだ雪が多く残る状況であったため、その様子は見られなかった。市内

中心部の繁華街にこのような特定の車種だけに特化した店が成り立つこと自体、当地での電動アシスト車の人気の高さを伺わせるものである。



調査店舗②



試乗も可能

調査店舗③

上記店舗②店主に勧められ急ぎよ尋ねたが、同店はビーチクルーザーのフレームに電動アシストユニットを取り付けたオリジナル車を展示していた。展示台数は8台ほどと少ないが、ビーチクルーザーばかりで、一般自転車店とは趣の違った小型店舗である。以前は普通の事務所であったところに店舗を開業したばかりで見つけにくい場所にあったが、現在8メートルの看板の納品を待っていると語っていた。当地のような起伏のある土地ではビーチクルーザーは一見不便なように思われるが、敢えてその車種を電動アシスト車化して販売する様子から自転車需要の多様性をも感じた。



調査店舗③



ビーチクルーザーの電動アシスト車

調査店舗④

中心部から地下鉄で数分の場所に位置する店舗で、店内にはMTBやトレッキング車を中心に200台程展示されていた。スポーツ車の主要ブランドでは、高級車はキャノンデール、入門車から中級車はGHOST、CUBEが中心。トレッキング車は、入門車ではステッペンウルフ、中級車以上ではVSF Fahrrad（自転車小売組合ブランド）であった。また、高級アメリカ・

ブランドのエルスワースも見られた。

電動アシスト車は、フライヤーが最多の 8 台程で、他はビクトリアなど 7 台で合計 15 台程の展示であった。「当初、ガゼレの電動アシスト車を導入したが販売は振るわず、現在はフライヤーに変更して好調である、他ブランドでは、BionX のユニット車も人気が高い。ガゼレは価格が高く、オランダ製のデザインが当地で受け入れられなかったのではないか。」と店長は語ってくれた。



調査店舗④



MTB 売り場



電動アシスト自転車はフライヤーが主力

調査店舗⑤

大人用自転車 30 台、子供車 15 台程の小型店舗で、他にはブロンプトンの折りたたみ車の取り扱いがあった。電動アシスト車はビクトリア 1 台のみであった。



調査店舗⑤



店内の様子

調査店舗⑥

オリジナルのハンドメイド自転車のみを取り扱う小型店舗で、展示車は8台程であった。価格はスポーツ車、トレッキング車は、2,000ユーロ(257,000円)前後、シティ車は、1,600ユーロ(205,600円)と高額であった。また、ブルックスの皮サドルやグリップなど、使用部品にも付加価値の高いものが見られ、室内の装飾にも店主のこだわりが感じられた。なお、日本製部品にも強い関心を示したため、JBG送付を約束した。



調査店舗⑥



オリジナルのシティ車

調査店舗⑦

スポーツ車専門の小型店で、電動アシスト車の取り扱いは無く、MTBはキャノンデール10台、STEVENS10台を中心に合計30台程の展示であった。展示車の販売価格帯は1,000~2,000ユーロ(128,500~257,000円)と他の小売専門店と比べて同程度とも思われるが、高額な自転車を扱っているとして、写真掲載によって盗難を恐れた店主に店内撮影は断られてしまった。

調査店舗⑧

中央駅から地下鉄で6駅程の距離にある大手家電量販店やファーストフード店が居並ぶシ

ショッピングセンター内にある大型店舗で、広々とした展示スペースに合計 500 台もの自転車が並ぶ姿は壮観であった。車種も MTB、ロードレーサー、トレッキング車、シティ車の各コーナーには豊富なブランドと台数が揃っていた。また、電動アシスト車は 20 台あり、店員は「同車種は以前から人気はあったものの高齢者用という印象が拭えなかった。最近、MTB アシスト車等、スポーツ車タイプの登場によりスポーティーなイメージが広がり、従来からスポーツ車需要の高い同地域で、更に利用者の年齢層が広がったのではないか。」と述べていた。



調査店舗⑧



広々とした売り場



シティ車コーナー



ロードレーサーコーナー



MTB タイプの電動アシスト車



ここでもフライヤーが人気

店内は完成車だけでなく部品や付属品の展示面積と数量も充実していたが、同店は3店舗あるうちの支店に過ぎず、同市郊外にある本店はこの倍の展示面積を有し1,000台の陳列があると聞き、今回、本店を訪れる機会が無いことが惜しまれた。なお、付加価値の高い日本製部品に関心を示したため、本店宛にJBG送付を約束した。

参考1；店舗⑨

市郊外の丘陵地に位置し、自動車での来客を意識した大型店舗で、展示台数は300台以上、スポーツ車を中心に幅広く車種を揃えるが、電動アシスト車はわずかに2台のみであった。価格は、500～1,000ユーロ(64,250～128,500円)の価格帯が中心であるが、ロードレーサーではスイスのBMC等もあり高額スポーツ車も見られた。更に400ユーロ(51,400円)以下の安価なMTB類型車やシティ車などが入口付近の屋外に80台程陳列されていた。店内は部品、付属品も充実しており、数名の若い店員たちがテキパキと働く姿が印象的であった。当日は責任者不在で店内撮影許可が取れなかったことが残念であった。

参考2；店舗⑩

訪問時が店舗の昼休みであったため店内見学ができなかった。同店はアメリカ・ブランド、スペシャライズドのスポーツ車、特にMTBを中心に扱う小型店舗であった。展示は概算で50台程、電動アシスト車は見当たらなかった。



店舗⑨



店舗⑩

以上

(デュッセルドルフ事務所)